

GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2022

Winter

地球の宝もの 世界自然遺産

第二特集

スイーツ好きに教えたい

世界のデザート

[発行](株)ジャパングレイス



人類が地球に出現する以前から、自然は営みを続け、変化し、進化してきた。世界各地には、人類の力の及ばない自然現象があり、自然の神秘があり、驚異がある。世界を巡るピースボートクルーズで、その素晴らしさを間近で体感しよう。「世界自然遺産」のなかに身をおいて、見て、聞いて、ふれる。それはかけがえのない心の財産になるだろう。また世界遺産のなかでも自然遺産と文化遺産の両方の価値がある、希少な「複合遺産」を訪ねることもできる。そこでは自然と人類の営みが融合した不思議さや創造力に圧倒されるだろう。



GLOBAL VOYAGE 2022 Winter

CONTENTS

特集

世界自然遺産の船旅…………… P3

「何もない土地」に自然のすべてがある

〔ナミブ砂海〕…………… P4

「大いなる水」と亜熱帯の自然

〔イグアス国立公園〕…………… P5

世界有数の植物多様性

〔ケープ植物区保護地域群〕…………… P6

最大落差108メートルから捲き上がる水煙

〔ビクトリアの滝〕…………… P7

唯一無二の野生動物の楽園

〔ガラパゴス諸島〕…………… P8

自然遺産×文化遺産の魅力は無限

世界複合遺産…………… P9

第二特集

スイーツ好きに教えたい

世界のデザート…………… P10

〔特別寄稿〕

ピースボートの旅は、
後からじっくりと効いてくる…………… P12

〔インタビュー〕

世界のリアルを感じ学ぶ
ピースボートクルーズ…………… P14

PEACE BOAT NEWS…………… P16

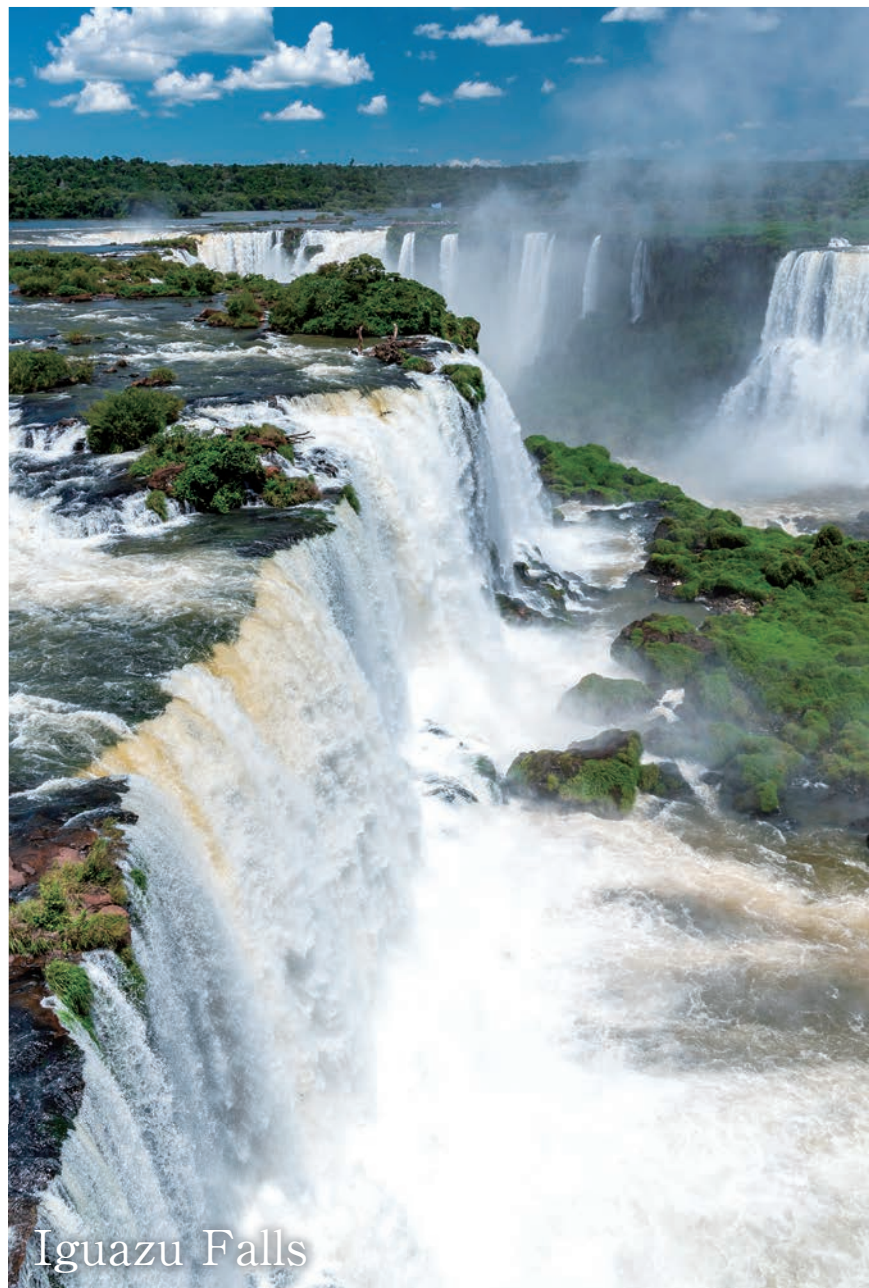
防災のプロに聞く

新年に考える家族の防災…………… P18

表紙の写真

2300キロ続く世界最大のサンゴ礁群、グレートバリアリーフ。自然にできた美しいハート形のサンゴ礁も有名。





Iguazu Falls



大小の滝が広い範囲にわたって流れ落ちている。

「大いなる水」と亜熱帯の自然 「イグアス国立公園」

ブラジル／アルゼンチン



ブラジルとアルゼンチンの国境を流れる大河、イグアス川。この沿岸約2200平方キロメートルの熱帯雨林がイグアス国立公園となっている。最も知られているのが大迫力の光景に圧倒される、世界三大瀑布のひとつ「イグアスの滝」だ。大小275の滝が連なり、最大落差は80メートル超で、滝の幅は4.5キロ、水量は毎秒6.5万トンにも達する。イグアスとは先住

民族の言葉で「大いなる水」という意味。一番の見どころは「悪魔のど笛」と呼ばれるポイントで、大量の水が流れ落ちる轟音が、悪魔のうなり声にたとえられている。滝の周りはトレッキングコースになっているので遊歩道を散歩する感覚で壮大な景色を堪能できる。また公園内に生息する絶滅危惧種も含んだ動物類や亜熱帯特有の植物群との出会いも楽しめる。



Namib Desert

「何もない土地」に自然のすべてがある 「ナミブ砂海」

ナミビア共和国



2013年に登録された世界自然遺産。南アフリカ共和国と国境を接するナミビアの、大西洋を望む沿岸のナミブ砂漠のなかにある。7000万（1億年前に誕生したといわれる世界最古の砂漠のひとつで、南北約320キロ、東西120キロと延々と砂丘が続く。「ナミブ」は、狩猟民族のサン人の言葉で「何もない」を意味するが、ナミブ砂海は、自然美、地形、生態系、生物多様性という自然遺産登録基準の4つすべてをクリアしている。だから「何もない」の正反対なのだ。砂がオレンジ色であることも特徴で、これは数千キロも離れた土地から河川や海流、風などによって運ばれてくる砂塵に、その過程で鉄分が付着して酸化するため。高さ数百メートルのデューン（砂丘）が延々と連なり、時間によって色味や見え方が変わる自然美は息を呑むほどの美しさだ。また絶景ポイントのひとつ「ソッサスフレイ」もおすすめ。カメレオンや寿命1000年以上といわれる固有植物「ウエルウィッチア」など出会える動植物も多様だ。

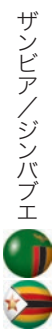


朝日や夕日に照らされる神秘的な姿。



きめ細かい砂でできた砂丘が延々と広がる。

最大落差108メートルから 巻き上がる水煙 「ビクトリアの滝」

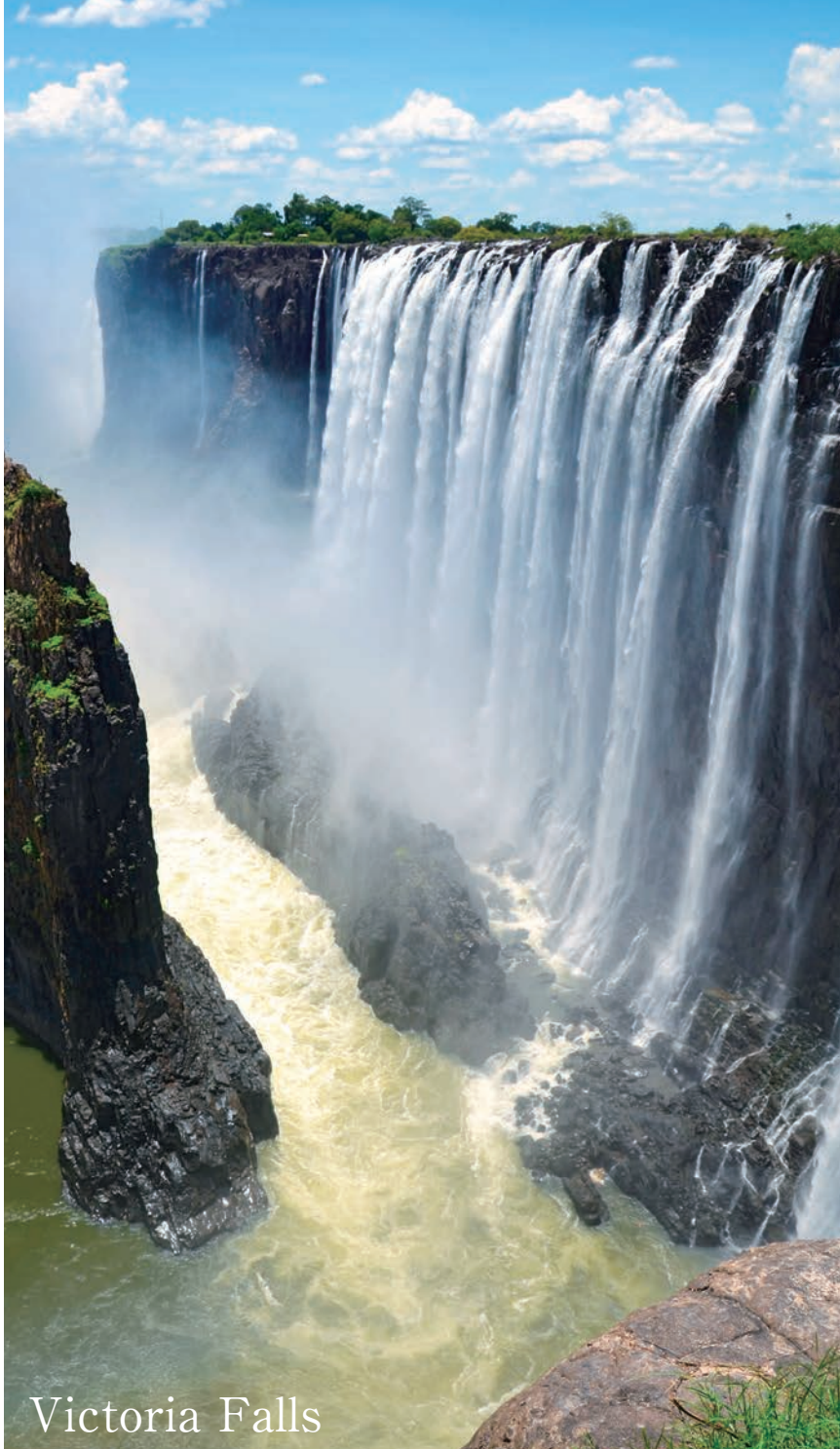


ナイアガラ、イグアスと並び世界三大瀑布のひとつに数えられるビクトリアの滝。イギリス人が女王の名前にちなんで名付けたが、現地では「モシ・オア・トゥンヤ（雷鳴の轟く水煙）」と呼ばれている。幅は1700メートル、落差は108メートルにも及び、あの有名なナイアガラの滝の2倍を誇る最大落差が特徴だ。多くの滝は高低差によって形づくられるため、山や崖があるが、ビクトリアの滝は周囲数百キロメートルに

わたり、平原が広がっているのが特徴だ。1700メートルの滝の部分の水が吸い込まれていく様相は、まさに自然の神秘を感じさせてくれる。滝に沿って歩ける遊歩道が整備されていて、そこからは轟音を立てて流れ落ちる滝の姿を見ることがができる。滝壺へ落下する水のスピードは時速150キロにも達する。その勢いもあり、水煙が800メートル以上も空高く立ち上がる。



遊歩道が整い断崖の近くまで行くこともできる。



Victoria Falls



遠くからももうとうと立ち上がる水煙が見える。

世界有数の植物多様性

「ケープ植物区保護地域群」



ケープ植物区保護地域群は、世界6大植物区のひとつで、南アフリカの南西部に帯状に分布する自然の灌木植生地域。総面積はアフリカ大陸の0.5%に過ぎないが、アフリカの植物の20%が集中している。そのうち6000種類以上は、この地域にしか存在しない固有種や絶滅危惧種である。

このエリアの沿岸部に帯状に群生するフィンボスは、植物種の数では全体の約8割を占め、アフリカンス語で「細い低木」という意味の通り、その大半が細い針状の葉をもっている。セダーバーク山脈周辺にのみ自生するルイボスティーもフィンボスの品種のひとつ。ケープタウンきつての観光名所であるテーブルマウンテン国立公園は見どころがたくさん。ケープルカーで山頂へ登れば、さまざまな植物や野生動物を観察しながら自然散策を楽しめる。テーブルマウンテンの東側に位置するカーステンボッシュ国立植物園は、絶滅危惧種や南アフリカの固有種などを見学でき、周辺ではシダ植物、高山植物など自然の植生を目にすることができる。



1:筒状の花と針葉をそなえているフィンボス。2:長い尾が特徴のマラカイトサンバードの雄。3:固有植物のひとつである赤い花を咲かせるアロエ。



Cape Floral Region Protected Areas

自然遺産×文化遺産の魅力は無限

世界複合遺産

2021年時点で、世界遺産の登録数は1154件あり、そのうち世界複合遺産は39件。
自然遺産と文化遺産の両方の価値と魅力を有し、観光地として見応えは十分だ。
貴重な複合遺産のなかからピースボートクルーズで訪れることのできるスポットを紹介する。



ギョレメ国立公園とカッパドキアの岩窟群
(トルコ)

カッパドキアにはキノコや塔のかたちをした奇岩が立ち並び、その風景は幻想的である。ギョレメ渓谷には、ビザンティン帝国による迫害を逃れて移り住んだキリスト教徒の洞窟修道院や謎を秘めた地下都市などが残っている。「ギョレメ」とは「見てはいけないもの」を意味する。



ティカル国立公園
(グアテマラ)

マヤ文明の最大かつ最古の都市遺跡。3～9世紀に栄え、10世紀に遺棄され、19世紀に発見された。約575平方キロメートルの広大なジャングル内の青々と茂る森林のなかに、高さ51メートルの「大ジャガーの神殿」、42メートルの「仮面の神殿」をはじめ多くの建造物がある。



ウルル=カタ・ジュタ国立公園
(オーストラリア)

約30キロの距離を置いて、有名な2つの岩山が横たわっている。ウルル山は高さ348メートル、周囲約9キロの巨大な一枚岩。カタ・ジュタは大小36の巨石群からなっている。公園内には岩山を聖地とする先住民族アボリジニの集落があり今も伝統的な生活を維持している。



ワディ・ラム保護地域
(ヨルダン)

砂漠に見られる多様な景観が特徴で、岩山のアーチ、切り立った崖など変化に富んだ地形に圧倒される。また壁画や碑文をはじめとする考古学的遺産からはるか昔の人の営み、文字の発展を知ることができる。『アラビアのロレンス』をはじめとする映画の撮影場所としても知られている。



メテオラ
(ギリシャ)

ギリシャのテッサリア地方ピンズ山麓に、高さ30～400メートルの岩の塔が点在している。その岩の上に建てられているのが「メテオラ修道院」。険しい地形は俗世間との関わりを断って修行するうえで格好の場所であった。修道士が祈りと瞑想の際に使った洞窟も残されている。



マチュ・ピチュの歴史保護区
(ペルー)

アンデス山麓の尾根に位置するペルーの都市遺跡。インカ帝国の遺跡のなかでも神殿や住居はじめ保存状態がとても良い。高地につくられた要塞都市には謎が多く、だからこそ魅力的ともいえる。周辺には絶滅危惧種が多く生息し、希少なほ乳類、鳥類そして美しい自然を楽しめる。



Galapagos Islands



1:ゴジラのような顔をしたウミイグアナは世界で唯一泳ぐことができるイグアナで、水中の海藻を食べるために進化した。2:ウチワサボテンの下では、落ちてくるサボテンの実を狙ったリクイグアナを見ることができる。

南米大陸のエクアドル本土から約900キロ離れた洋上にあるガラパゴス諸島は、主要な19の島と、多数の小島や岩礁から構成されている。世界遺産の第号のひとつとしても有名だ。「ガラパゴス」とは、スペイン語で「ゾウガメ（陸ガメ）」を意味する。島には最古の爬虫類ガラパゴスゾウガメをはじめ独自の進化を遂げた野生動物たちが多数生息している。海に潜ってエサをとるウミイグアナ、スカイブルーの足をもつアオアシカツオドリ、赤い大きなのど袋をもつアメリカカグンカンドリ、ペンギ

ンとして熱帯域に唯一分布するガラパゴスペンギンなど約6000種ともいわれる希少な動植物が生息している。天敵がいなかったため、のびやかに生活してきた動物たちは人をおそれないが、触ることは固く禁じられている。ガラパゴス諸島は、イギリスの生物学者チャールズ・ダーウィンが『種の起源』を執筆するうえで調査を行ったことでも知られているが、それを記念した「チャールズ・ダーウィン研究所」では現在も生態系調査や島の自然保護などの活動に取り組んでいる。

唯一無二の野生動物の楽園
「ガラパゴス諸島」

エクアドル





〔ブリガデイロ〕

ブラジル

ココアパウダー、練乳、バターを混ぜて、ボール状に丸めて砂糖などをまぶす。ブラジルの国民的お菓子。



〔ピカロン〕

ペルー

サツマイモ、カボチャ、小麦粉、イーストなどを混ぜて焼き上げたスイーツ。ペルーのドーナツともいえる。



〔シルニキ〕

ロシア

白いフレッシュチーズを練り込んだ生地を使うパンケーキ。朝食やおやつなどロシアの食卓には欠かせない。



〔チーマーチュウ〕

中国

胡麻餡を白玉粉に水と胡麻油を混ぜた生地で包み、胡麻をまぶして揚げる。さっぱりとした食感が魅力。



スイーツ好きに教えた

世界のデザート

The World's Desserts

食後にデザートを食べる習慣がある国は多く、その種類は国によってさまざま。旅先で、デザートの食べ比べもぜひトライしたいし、胡麻団子やワッフルなど、普段食べ慣れているデザートの「本場の味」を堪能できるのも楽しみだ。



〔デニッシュペストリー〕

デンマーク

薄いパン生地にバターを何層も塗って、チョコレートやジャムをのせて焼き上げる。サクサクの食感が魅力。



〔バブロバ〕

ニュージーランド

お祝いの日のスイーツ。メレンゲに生クリームとフルーツのトッピングが定番だが、家庭ではお好みで楽しむ。



〔パステリート〕

アルゼンチン

一般家庭でよく作られる。甘いジャムやサツマイモを薄いパイ生地で包み、焼き上げてから粉砂糖をまぶして食べる。



〔クグロフ〕

フランス

ナッツやリキュールで香り付けした干しぶどうなどを練り込んだ生地を焼き上げる。フランスの定番のお菓子。



〔パンネック〕

オランダ

オランダのパンケーキ。生地の上には、生クリームのほかバナナ、リンゴ、タマゴなどトッピングはさまざま。



〔スキール〕

アイスランド

アイスランドの伝統的な乳製品。カルシウムとたんぱく質が豊富で栄養価が高く、国民食ともいえる。



〔ハニーリング〕

マルタ

マルタの定番お菓子。外側はサクとした食感で、内側にオレンジピールやアニスのリキュールが入っている。



〔パノフィーパイ〕

イングランド

バナナ、クリーム、タフィで作ったパイ。誰にも愛されるコンビネーション。チョコレートをに入れても美味しい。



〔ラピス・サグ〕

シンガポール

いろいろな風のカラフルなお餅を重ねたお菓子。甘さは控えめで、もちもちとした食感とココナッツ風味が特徴。



〔グラブジャムン〕

インド

世界一甘いともいわれるお菓子。粉ミルクで作ったドーナツを油で揚げ、甘いシロップにひたして食べる。



〔セムラ〕

スウェーデン

カルダモンを混ぜたパンで生クリームを挟んだスイーツ。春の到来を祝うスイーツとして親しまれている。



〔ロクム〕

トルコ

トルコの伝統菓子のひとつ。アラビア語で「喉のいやし」を意味する。もっちりとした食感と四角形が特徴。



〔ナナイモ・バー〕

カナダ

カナダの代表的なスイーツ。カスタード風味のバターを挟んだウエハースを冷やしてチョコレートをかける。



〔コークシスター〕

南アフリカ

三つ編みのように編んだ形が特徴的な甘いドーナツを、冷たいシュガーシロップにつけて食べる。



〔ベルギーワッフル〕

ベルギー

日本でおなじみのサクとした食感のリエージュタイプと、軽くて柔らかいブリュッセルタイプがある。



〔ポルボロン〕

スペイン

古くは修道院で作られ、ほろほろとした食感と素朴な味わいが特徴。お祝いの菓子として愛されている。



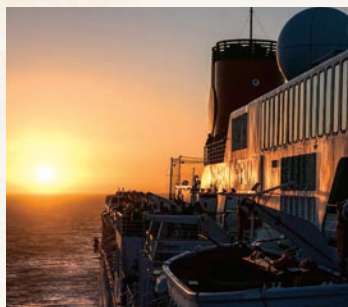
高橋 和夫さん
TAKAHASHI Kazuo

(国際政治学者、放送大学名誉教授)

世界情勢をわかりやすい言葉で話してくれる国際政治学者で、解説者として数多くのテレビ番組に出演。また世界の複雑な問題を鋭く、かつ分かりやすく解説してくれる講座は、毎クルーズ人気が高い。著書に『イスラム国の野望』(幻冬舎新書)、『アラブとイスラエル パレスチナ問題の構図』(講談社現代新書)、『イランとアメリカ 歴史から読む「愛と憎しみ」の構図』(朝日新書)、『中東から世界が崩れる イランの復活、サウジアラビアの変貌』(NHK 出版新書)など。

ピースボートの旅は、 後からじっくりと効いてくる

ニュース番組からワイドショーまで数多くのテレビ番組に解説者として出演し、数々の著書をも手掛けている高橋さん。水先案内人として幾度も乗船した経験から、ピースボートクルーズならではの魅力について執筆いただきました。



きっかけは、エリトリアだった。どこかで見かけたピースボートのポスターが、寄港地の二つに挙げていた。行ってみようと思った。というのはクウェートに留学中にアラビア語のクラスの同級生にセハイという名のエリトリア人がいたからだ。とても、いいやつだった。それでエリトリアという存在を知った。当時は、まだエチオピアの一部とされていた、エリトリアは国ではなかった。歴史を調べるとイタリアの植民地にされ、その後には支配者がイギリスに変わり、そしてエチオピアに併合されている。エリトリア人は、独立を求めた。エリトリアは、当時のエチオピアの海に面した部分であった。紅海を隔てサウジアラビアと向かい合っている。このエリトリアを失うとエチオピアは海への出口を失ってしまう。それがエチオピアが

エリトリアの独立を許さなかった大きな理由だった。だがエリトリア人は立ち上がり独立を求め戦った。女たちも銃を取った。そして長年の闘争を経て、1993年に独立を達成した。最初に講師として乗らないかとの打診を受けた時に、確認するとエリトリアに寄港することだった。それならばということで、講師として、つまり「水先案内人」として乗船した。インド洋を抜けて、ある朝に目覚めるとデッキの外にエリトリアのマッサワ港があった。ついにクウェートでの同級生の国にやってきた。

マッサワでは独立闘争の話を聞いた。現地のインジャラという食べ物をいただいたりした。インジャラは甘くないクレープのようなもので、野菜や肉などを包んで食べる。マッサワでは

気温が高いので腐らないように少し酸味を強くしているとのことだった。この都市の全体の印象は何もない。暑さだった。そしてピンと背筋を伸ばした誇り高い人々がいた。

こうした観光地でない港を訪れるのが、ピースボートの面白さである。もちろん有名な都市を海から訪れる魅力は、言うまでもない。たとえば上海という都市には何度も行った。だが飛行機で行ったのでは、この都市の巨大さを実感できない。船で揚子江を上って上海に近づくと、クレーンの列が無限とも思えるほど延々と続いている。この「魔都」と呼ばれる都市の大きさと中国の経済発展を視覚的に確認できる。あるいはニューヨークを

船で訪れる経験も格別である。飛行機と船では、感動の種類が違う。ゆっくりと船でマンハッタン島に近づくと、自由の女神像が視界に入ってくる。最初はボンヤリと、そして鮮明に見える。これが、ヨーロッパからの数多くの移民たちが最初に見た風景だ。『ゴッドファーザー』という映画の最初の場面のようにである。移民たちの感情を追体験しているような気になる。大きな港に行くのも素敵だ。ピースボートの「普通のクルーズ」らしい部分は、素晴らしい。

しかし、ピースボートしか行かないような港の風景も捨てがたい。マッサワ以外の例を挙げるとモザンビークの首都マプトがある。モザンビークはアフリカの南東にある。南アフリカの北

に位置しインド洋に面している。ポルトガルから独立した国である。安土桃山時代にポルトガルの宣教師がモザンビーク出身の黒人を織田信長に「献上した」という記録が残っている。現地ではツアートのバスに乗ると、ブラジルと同じような音楽が流れている。このノリからして、ポルトガル語圏に入ったのが耳から理解できる。ここでは、内戦で負傷した人たちの村を訪ねた。地雷で足を失った人々が暮らしている村だった。こうした場所も、普通のクルーズでは訪れないだろう。

何年か前に上海のホテルのロビーで隣り合わせた外国人の家族とおしゃべりをする機会があった。お父さんが、どこから来たのかと尋ねたので、日本だと答えた。こちらも相手の出

身地を問い返した。容貌からアフリカ系の家族だろうとは推察できた。英語からアメリカ人でないのも想像できた。だが、それ以上は、わからなかった。相手は、自分の国など知らなくて当然だ。知っているはずは絶対にない。というような風情で「エリトリア」と答えた。

「エリトリアのマッサワには、何回か行ったことがあるし、インジャラも食べたことがある。マッサワのインジャラは、酸っぱい」と言葉を続けると、その男の表情が笑顔に崩れた。相手は驚き喜んだ。中国でエリトリアに行ったことのある日本人に会うとは想像もしていなかったからだろう。マッサワの暑さを思い出した。ピースボートの旅は、何年後かに、じっくりと効いてくる。📌

世界のリアルを感じ学ぶ ピースボートクルーズ

特別寄稿に続いて、国際政治学者の高橋和夫さんに、ご自身のピースボートクルーズの楽しみ方や寄港地での体験、そしてこれから船旅に出る予定の方へのメッセージなどを、クルーズディレクターの田村美和子が伺った。



多世代が交流できる ピースボートクルーズ

田村…高橋さんはピースボートクルーズに20回以上乗船されていますが、どのような魅力があると感じていますか。

高橋…ほかの船旅は高額で若い人はあまりいないでしょうが、ピースボートは若い人も乗船しているのが特徴ですね。またシニアの方も多くいらして、世代や立場を超えて語り合い、一緒に楽しむ多世代交流型の船旅です。もちろん、世界を見ることも大きな魅力ですが、そこでの交流を通して日本人社会の縮図のようなものが見られるのが素晴らしいと思いますね。

好きなことに集中できる 洋上の豊かな時間

田村…洋上ではいつものように過ごされますか。

高橋…時間がゆっくり流れるのが最高ですね。電話も鳴らないし原稿の催促もない(笑)。適度に運動もできて食事もうまい。とても豊かな時間です。考える時間があつて、集中できるので長文も書ける。本好きな人には読書にも最適ですね。あと私は海をよく眺めます。朝日と夕日に照らされる海、それに夜の海が好きなん

です。「洋上は退屈でしょう?」と聞かれたりしますが、まったくそんなことはない。まわりでも退屈している人を見たことはありません。

北欧の福祉国家づくりは 参考になる

田村…心に残っている寄港地はありますか。

高橋…たくさんありますがクロアチアのドブロブニクは圧倒的に美しかったですね。最初に行ったときは内戦で街が傷ついて痛々しかったのですが、次に訪れたときは復興してすごい観光地になっていました。ほかには北欧の景色も印象的です。北欧の国々はこれからの日本が参考にすべき点が多くあると思います。日本はこれまで欧米の強国をモデルにしてきましたが、これからは国民の幸せをまずは考えるべきでしょう。北欧は小国ですが、福祉を第一に幸福度の高い国をつくっています。それが一体どういうものなのかを直接見聞する。寄港地を訪れたらそういう点もみてほしいですね。



クルーズで感じる リアルな国際社会の動き

田村…国際政治学者としての目を通すとさまざまな様相が見えてくるわけですね。

高橋…ピースボートがどこに寄港するかを見ていると国際社会の動きがわかって勉強になると思います。たとえば当時リビアの最高指導者カダフィが西側に舵を切り始めた頃、ピースボートも訪れたし、中国の「一带一路」構想におけるスリランカや、ギリシャのピレウス港の開発・整備を目の当たりにするとリアルに世界の空気感を感じられます。また中東地域はいま、全体的に大変な状況のなかでヨルダ



難民キャンプで聞く話が 大きな財産になる

田村…高橋さんの財産になっているという「出会い」について教えてください。

高橋…中東を専門としていますから、ヨルダン寄港時に訪れたパレスチナ難民キャンプでの出会いは印象的でした。彼らの話は胸に突き刺さります。現地感覚がひしひしと伝わり、自分の考え、発言に影響を与えます。ニューヨークタイムズの記事をそのまま喋っているようでは駄目だ、という戒めにもなります。ピースボートクルーズでは難民キャンプも訪ねますが、こういう場所に行くクルーズはほかにはないでしょうね。

オーロラとツタンカーメン に会いに行きたい

田村…今後の船旅で訪れてみたい国はありますか。

高橋…たくさんありますが、オーロラが見られる地域かな。以前、ノルウェー

とカナダで陸地からオーロラを見ましたが、手を伸ばしたら届くくらいの素晴らしいオーロラが現れて感動しました。でもとても寒かったので、それを温かい船内、船上からもう一度見たいですね(笑)。エジプトもまた行きたいです。日本のODA、考古学の専門家も貢献し、建設が進む「大エジプト博物館」はぜひ行ってみたいと思います。



また、お互い元気で クルーズで会いましょう!

田村…これから初めてピースボートに乗船を予定されている方にメッセージをお願いします。

高橋…私はテレビに出演したり講演に呼ばれたりしますが、内容が気に入ってもらえるとディレクターや主催者にまた呼んでもらえるんですね。



それと同じで、ピースボートに乗るとリピーターの方が多い。つまり何度乗っても価値がある、おもしろいと評価されているわけです。何よりもそのことが素晴らしい船旅になることを物語っています。存分に堪能してください。

田村…リピーターの方へはいかがでしょう。

高橋…船上で一緒に食事をしたりお酒を飲んで語ったりした方が、日本中にいます。出先で声をかけられたり、講演先に会いにきてくれたり、出演するラジオにメールを送ってくれることもあります。同じ空間で過ごした者同士は不思議な連帯感というか身内意識が生まれて、日本中に家族がいるようで支えになっています。ぜひともまたリピーターの皆さんとお会いしたいです。私も次のクルーズをとっても楽しみにしています。



今回登場する商品は、キティ船長とクルーというイメージで、サンリオの多くの人気キャラクターが各種グッズに展開される。
現在、ポロシャツ、スカーフ、パーカー、Tシャツをはじめとする衣類



から小物雑貨まで数多くのアイテムの製作が進んでいる。船内限定発売という希少性もその価値を高めている。ご自身で身につけることはもちろんご家族やご友人などへのお土産にもおすすめです。世界中で人気のサンリオキャラクターたちが、オリジナルグッズを手に寄港地に降りれば、どこでも注目の的になるだろう。



※コラボレーションのイメージです。

ピースボートでしか手に入らない楽しいコラボグッズ



マグカップ



ハンカチ



スカーフ



Tシャツ



トートバッグ



スカーフ

© 2022 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L625328

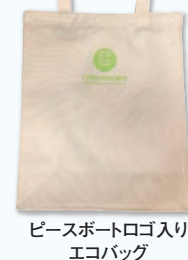
ピースボート世界一周クルーズに サンリオとのコラボ商品が登場

ピースボートクルーズでは来春より、株式会社サンリオとコラボレーションした人気キャラクターズ商品を、新しいチャーター船となるパシフィック・ワールド号の船内限定で販売していくことを決定した。外航客船とサンリオキャラクターズの共演は初となり、「世界中のひとびとと仲よくしていきたい」をテーマにTシャツ、マグカップ、トートバッグ、小物雑貨など子どもから大人まで楽しめる商品を展開していく。

PEACE BOAT ONLINE SHOP



白山米・新米 ゆめみつほ
ピースボートクルーズ船内
レストランにて提供されてい
るものと同等のお米です。



ピースボートロゴ入り
エコバッグ



シップリン
人形型チャーム



シップリン ポロシャツセット

オンラインショップはこちらから

ご自宅でも船上の旅気分を！
ピースボートクルーズ
公式オンラインショップ



たくさんさんの夢と希望を乗せて、世界の海を巡ってきたピースボート。その船内にあっただけるラインアップとなっています。ピースボートのイメージキャラクター「シップリン」ポロシャツをはじめ、ここでしか手に入らない魅力的な商品ばかり。ぜひ一度、ショップページサイトをご覧ください。

皆さまはもちろん、これから乗船される方々もお楽しみいただけるラインアップとなっています。ピースボートのイメージキャラクター「シップリン」ポロシャツをはじめ、ここでしか手に入らない魅力的な商品ばかり。ぜひ一度、ショップページサイトをご覧ください。

防災のプロに聞く 新年に考える家族の防災

災害時の連絡方法を 決めておく



防災は家族二人で準備するものではなく全員で考え備えることが大切。まず考えるべきは「連絡方法」と小林さんは言う。大きな災害になるほど電波や基地局の問題で通話がしにくくなる。そのような状況で家族とどのように連絡を取り合うのだろうか。

「家族間で普段から使っているライン、ショートメールなど通話以外の方法で安否確認をしましょう。また災害時に使用できる伝言ダイヤルも頭に入れておきたいです。さらに災害発生地点より遠方の親戚に連絡して情報をまとめてもらうなど、複数の方法を決めておくのが有効です」。

それぞれの避難場所を 認識する



とはいえ、すべての通信手段が途絶えてしまうことも考えられる。次に考えたいのは自分の判断で避難すること。家族間で認識しておくべきことはどのようなことだろうか。

「父は仕事先であればここ、娘が学校にいればあそこといったようにお互いの居場所によってどこに避難するか知っておく必要があります。またどこへ避難するかですが、これは地域でどのような災害がおき、どのような被害が発生しやすいのか知っておくことが前提となります。ハザードマップを確認して、災害によってどこへ避難するか在宅避難も含めて話し合っておくといでしょう」。

船旅の準備は 避難生活にも役に立つ



避難所へ行く際に非常持出し品をどうするか、何をリュックに入れていくかを考えていくわけだが、基本的な持出し品は船旅の準備と関連があるという。なぜならその持参物は避難生活に役立つものが多いからだ。

「たとえば洗面具、歯ブラシ、スリッパ、安眠のためのアイマスクや耳栓、エア枕などは避難生活を少しでも快適に過ごすために必要です。またコンパクトにまとめるという点でも共通点があります。さらにいうと旅先での万の連絡方法の確認は防災にも生きてきます」。

防災のプロの 日常的な備え



では防災のスペシャリストの小林さんは、家族でどのような対策をしているのだろうか。

「わが家は両親と二世帯で暮らしていて小学生と幼児の二人の子ともいう家族構成です。みんな揃っての防災の作戦会議は年1回行っています。住まいのあるエリアは土砂災害、河川氾濫、地震による津波被害が発生する可能性があり、たとえば津波があったときどこまで浸水するかという動画をみんなで見て、高台の避難場所まで

「お互いさまサポーター」 の輪を広げる



災害の規模が大きいくほど家族や地域の災害対策だけで日常生活を取り戻すのは難しい。時には、地域を超えて被災地を支えていく必要がある。PBVでは、被災地支援と共にお互いを支え合える仕組みとして「お互いさまサポーター」に力を入れている。

「近年は気候変動による気象災害をはじめ、いつどこで災害が発生してもおかしくはありません。そのとき被災地だけの生活再建は大変で、支援の手が必要になります。支援する側、される側というのは、いつか入れ替わる可能性もあります。そのため普段から、

2021年8月豪雨・佐賀支援 PBV活動報告

人と人のつながりのなかで 佐賀・被災地支援を継続

昨年8月、九州北部を襲った豪雨により、河川の氾濫、浸水被害、土砂災害が広い範囲で発生。PBVはコロナ禍での災害支援ノウハウをもって、特に被害の大きかった佐賀県・大町町へ支援に入り、スタッフが常駐して支援活動を展開。自治体、地域組織、支援団体などと連携しながら、物資の配布や食事支援、被災家屋の復旧、コミュニティへのサポートなどを続けてきた。復旧は着実に前進してきたが復興、生活再建へ向けてまだ支援が必要であるため、PBVでは引き続き被災地支援活動を継続していく。



詳しい活動報告は
こちらから



災害発生が「万が一」のものではなくなっている昨今、家庭の災害対策は大きなテーマ。あらためて家族の話題にするとかしこまってしまうが、新年という節目なら、新しい年について考えるテーマの一つとして、自然に話し合えるのではないだろうか。家族が揃う機会の多い年始に「わが家の災害対策」を立てよう。どのような準備が必要なのか、どのようなことを話し合っておくべきか、長く災害支援に携わり、防災のプロでもあるPBV理事の小林深吾さんに聞いた。

PBV ピースボート
ピースボート
災害支援センター

[オフィシャルサイト] <https://pbv.or.jp/>

船上百景 [洋上成人式]



一人ひとりに手渡されるピースポートオリジナルの「成人証書」を手に記念撮影「おめでとう!」。



忘れられない成人式になる。



樽酒で祝杯!という年もあった。

船旅らしく、多くの仲間 祝福される特別なセレモニー

日本の恒例行事のひとつ「成人の日」には、船内でも新成人の門出を祝う「洋上成人式」が行われる。企画から司会進行まで、新成人たちによる手づくりのセレモニー。この日のために用意してきた晴れ着に着替えて登場すると、会場は大きな拍手に包まれる。ゲストスピーカーからのお祝いの言葉を受けとめた後、主役たちは、それぞれこの日を迎えた喜び、将来への決意や夢などを発表。「たくさんの方々に支えられて、成人の節目を船の上で迎えることができました。今日まで出会った人たち、そして家族に感謝を伝えたいです」。一人ひとりの「想い」に耳を傾ける参加者は、自らの二十歳当時のことを思い出しながらエールを送る。そしてみんなで乾杯! この船旅で出会った多くの仲間と洋上で祝福される成人式は特別な日として心に残るだろう。



へ大笑いがあるだろう今年も／くだらぬことに喜ぶだろう今年も／短い旅に出るだろう／そして帰ってくるだろう――
詩人の谷川俊太郎さんが書いた『今年』という詩の一部です。本年もまた、笑ったり喜んだりする出来事が繰り返されることでしょう。そして旅に出て無事に帰ってくる――そんな当たり前の日常が、たくさん訪れることを願います。

コロナ収束後の旅行意向のアンケート調査では、「これまで以上に旅行に行きたい」の割合が増加しているそうです。さらに最近では、世界一周どころか民間人が宇宙へと旅立つ時代になりました。そもそも人間は、困難な時でも旅に駆り立てられる生き物なのかもしれません。『今年』という詩はこのような結ばれています。

へ地平は遠く果てないだろう／宇宙へと大きなロケットはのぼり／子等は駆けていくだろう／今年も遊びがあるだろう／生きてゆくかぎり／否むことのできぬ希望が――

私たちが生きてゆくかぎり、嫌だと言つても希望は消せないようです。水平線も果てることはありません。人々が旅をやめることもありません。希望の船はすぐそこまできています。「笑いながら旅に出る」をテーマに今年も一年励んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(N・I)